Press Release
【報道関係各位】
2017年8月

A Century of Art Journey through 100 Masterpieces

100

POLA MUSEUM OF ART

アンリ・マティス《リュート》1943年

時が流れ、美術も動く。
珠玉の100点でみる、歴史のダイナミズム。

2017年、ポーラ美術館は開館15周年を記念し、特別なコレクション展を開催いたします。
ポーラ美術館のコレクションは、ポーラ創業家2代目・鈴木常司が40数年かけて収集したもので、西洋絵画、日本の絵画、ガラス工芸、東洋陶磁、化粧道具など、ジャンルは多岐にわたりその数約1万点を数えます。特に当館の絵画のコレクションは、19世紀から20世紀にかけて活躍した画家たちの重要な作品が、体系的に集められています。本展覧会では当館収蔵の絵画作品のなかから、ポーラ美術館が選ぶベスト100、西洋絵画71点、日本の洋画29点を厳選いたしました。
本展では、この100点の名画を、画家や芸術運動、主題や時代に関わる20のテーマに分け、19世紀半ばから世紀転換期を経て、20世紀にいたる約100年間の西洋と日本の近代絵画の流れを旅するようにご覧いただきます。100点はどれもコレクションを代表する名作ばかり。ポーラ美術館はじまって以来の贅沢なコレクション展です。

- ◆ 出品点数：絵画100点
- ◆ 出品作家：エドゥアール・マネ、クロード・モネ、ピエール・オーギュスト・ルノワール、ポール・セザンヌ、フィンセント・ファン・ゴッホ、アンリ・ ルソー、アンリ・マティス、レオナール・フジタ(藤田嗣治)、マルク・シャガール、パブロ・ピカソ、黒田清輝、岡田三郎助、岸田劉生、佐伯祐三、梅原龍三郎ほか
- ◆ 会　場：ポーラ美術館　神奈川県足柄下郡箱根町仙石原小塚山1285　TEL:0460－84－2111

入館料		個人	団体(15名以上)		個人	団体(15名以上)
	大人	1,800円	1,300円	大学・高校生	1,500円	1,100円
	シニア割引(65歳以上)	1,600円	700円	中学・小学生	1,500円	500円

※ 料金はいずれも消費税込み。
※ 中・小学生の入館については、土曜日は無料です。
※ 中・小学生が授業の一環として観覧する場合、中・小学生および引率教員等の入館は無料です。

左上：クロード・モネ《睡蓮の池》1899年　左下：ポール・セザンヌ《砂糖壺、梨とテーブルクロス》1893 - 1894年
中：岡田三郎助《あやめの衣》1927年(昭和2)　右：岸田劉生《麗子坐像》1919年(大正8)

ポーラ美術館開館15周年記念展

100点の名画でめぐる100年の旅

2017.10.1 日 — 2018.3.11 日

開館時間　午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)　会期中無休
主　催　公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館

ポーラ美術館
POLA MUSEUM OF ART

みどころ HIGHLIGHTS

01 まるで美術史の教科書！ ポーラ美術館のコレクションから名作絵画ベスト100を一堂にご紹介

ポーラ美術館の絵画コレクションは、近代美術史上で重要な画家の作品が体系的に集められていることが大きな特長です。モネ、ルノワール、セザンヌ、ピカソ、マティスなど日本最多の絵画コレクションを数える画家も多くあり、日本の洋画のコレクションも充実しています。この度、ポーラ美術館では、開館15周年を機にコレクションの特長を生かし、西洋絵画と日本の洋画が美術史上でめまぐるしく展開した19世紀から20世紀までの100年間をコレクションで辿る展覧会を開催します。西洋と日本の絵画の流れを、美術史の教科書をめくるように辿れる貴重な展覧会です。

02 近代100年を名画でめぐる時間の旅

本展では、1860年代から1970年代に制作された100点の西洋絵画、日本の洋画を、西洋と日本で分けることなく、各作品の制作年代に沿った20のテーマで展示します。この約100年のあいだに社会は大きく変化しました。産業革命や万国博覧会、二度の世界大戦など、社会の大きな動きは、新たな美術の誕生にも影響を与えました。美術作品を、その制作された年代に沿ってみていくと、いろいろなことが見えてきます。近代化する風景を切り取る画家たちのまなざし、西洋から日本に伝えられる新しい美術の情報の広がり、また戦争が各国の画家たちにもたらしたさまざまな転機など。近代の歴史のダイナミズムを100点の名画を通して感じていただけます。

03 この絵が名画である理由―１点１点の魅力を楽しむ

ベスト100に選ばれた絵画は、それぞれたくさんの見どころを持つ作品ばかりです。会場では、各界で活躍される計17名のみなさまから、お寄せいただいた、「この絵が名画である理由」をテーマとしたコメントをご紹介します。多彩な視点から、ぜひ作品の新たな魅力を発見してください。また、近代美術100年の歴史の旅のしおりとなる楽しいリーフレットによっても、作品の魅力をご紹介します。ひとつひとつの名画のなかに広がる、豊かな世界をご堪能ください。

コメントをお寄せいただいた方々…

原田マハ(作家)、太田治子(作家)、高階秀爾(大原美術館館長)、馬渕明子(国立西洋美術館長)、三浦篤(東京大学教授)、青木野枝(彫刻家)、吉田晃子(『芸術新潮』編集長)、鈴木芳雄(編集者／美術ジャーナリスト)、吉谷桂子(ガーデンデザイナー)、浅生ハルミン(イラストレーター／エッセイスト)、グローバー(ミュージシャン)、鎧塚俊彦(ToshiYoroizukaオーナーシェフ)、雨宮塔子(フリーキャスター／エッセイスト)、豊久将三(照明家)、倉森京子(NHK美術番組プロデューサー)、森直義(絵画修復家／森絵画保存修復工房代表)、増田セバスチャン(アートディレクター／アーティスト)･･･(順不同、敬称略)

左: フィンセント・ファン・ゴッホ ≪アザミの花≫ 1890年　中央: エドゥアール・マネ ≪ベンチにて≫ 1879年
右: ピエール・オーギュスト・ルノワール ≪レースの帽子の少女≫ 1891年

◆ 記念講演会「近代美術の祝祭―ポーラ・コレクション」
講師:高階秀爾　(大原美術館館長)
日時:2017年10月28日(土)　14:00-15:00 (13:50開場)
会場:ポーラ美術館講堂　先着100名(要入館券)

◆ スペシャルギャラリートーク「私が選ぶポーラ美術館コレクションベスト5」
第1回　講師:山下裕二　(明治学院大学教授)
日時:2017年11月18日(土)
第2回　講師:結城昌子　(アートディレクター、アートエッセイスト)
日時:2017年1月27日(土) 各回14:00−15:00
先着30名(要入館券)

◆ ギャラリートーク
毎回テーマを設けて、学芸員が展示室で展覧会の見どころをご紹介します。
日時:2017年10月14日(土)、11月11日(土)、12月9日(土)
2018年2月10日(土)、3月3日(土) 各回14:00−14:40
先着30名(要入館券)

このほか会期中は、ワークショップや人気作品投票企画など、イベントを多数開催予定。

【報道に関するお問い合わせ】
ポーラ美術館広報事務局　担当:名取、屋木
TEL:03-4570-3172／FAX:03-4580-9155
MAIL:polamuseum.pr@prap.co.jp
住所:〒107-6033 東京都港区赤坂1-12-32
アーク森ビル33F 私書箱562号

ポーラ美術館　広報担当:中西
TEL:0460-84-2111／FAX:0460-84-3108
MAIL:pr@polamuseum.or.jp
住所:神奈川県足柄下郡箱根町仙石原小塚山1285

巨匠たちが誘(いざな)うタイムトラベル

本展覧会では、1860年か

01 大自然を歩く―印象派前夜

上：ジャン=バティスト=カミーユ・コロー
《森のなかの少女》1865 - 1870年頃
下：ウジェーヌ・ブーダン《海洋の帆船》1873年

1860 - 1870 年代

03 人物の探究―セザンヌとドガ

上：ポール・セザンヌ
《4人の水浴の女たち》
1877 - 1878年
下：エドガー・ドガ
《マント家の人々》
1879 - 1880年頃

1870 年代

05 美しき女性たち―マネとルノワール

上：ピエール・オーギュスト・ルノワール
《レースの帽子の少女》1891年
下：エドゥアール・マネ《ベンチにて》1879年

1880 年代

07 印象派の向こう側―ポスト印象派の挑戦

左：ポール・ゴーガン《異国のエヴァ》1890／1894年
右：フィンセント・ファン・ゴッホ《アザミの花》1890年

1890 年代

08 モネ、水の世界へ

上：クロード・モネ《睡蓮の池》1899年
下：クロード・モネ《睡蓮》1907年

1890 年代

10 色とかたちの冒険(アドベンチャー)―フォーヴとキュービ

1900 - 1910 年

1863年 サロン落選者展開催。マネ《草上の昼食》が物議を醸す
1874年 第1回印象派展開催、以後**1886年**までに計8回開催
1886年 モレアス「象徴主義宣言」
1889年 東京美術学校開校
1889年 パリ万博開催、エッフェル塔建設
1895年 第4回内国勧業博覧会で黒田清輝の裸体画《朝妝(ちょうしょう)》が問題となる
1900年 パリ万博開催
1905年 パリのサロン・ドートンヌの展示から「フォーヴィスム」誕生
1907年 第1回文展開催
1910年 ロンドンで
1911年 サロン・デザンデパン

1860 ◆ 1870 ◆ 1880 ◆ 1890 ◆ 1900 ◆ 19

1868年 明治維新
1870 - 71年 普仏戦争
1871年 フランス第二帝政崩壊、第三共和政成立
1880年 フランス、タヒチを併合
1889年 大日本帝国憲法発布
1894 - 95年 日清戦争
1904 - 05年 日露戦争
1871年 フランス第二帝政崩壊、第三共和政成立

注目

02 雲と煙―モネとモダニスム

上左：クロード・モネ
《散歩》1875年
上右：クロード・モネ
《花咲く堤、アルジャントゥイユ》1877年
下：クロード・モネ
《サン=ラザール駅の線路》1877年

1870 年代

モネは1871年、パリ郊外のアルジャントゥイユで暮らし始め、豊かな自然のなかで、家族との幸福な日常を描きました。また緑豊かだったこの地が徐々に都市化されていくと、モネは工場の煙突から出る煙や鉄道の蒸気に興味を惹かれ、その様をすばやく描きとめました。その一方で、失われゆく自然を惜しみ、産業化の波が及んでいない小村へと居を移し、ありのままの自然をとらえることに関心を移していきます。近代化する都市風景、あるいはそれと正反対の豊かな自然の風景、どちらも描いたモネの眼に、常に一貫していたのは、うつろいゆくものを見つめる視線でした。

04 光を描く―モネからスーラ

上：クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら》1884年
下：ジョルジュ・スーラ《グランカンの干潮》1885年

1880 年代

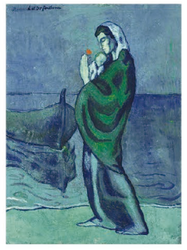
06 カンヴァスの上のサムライたち―日本近代洋画の黎明

上：小山正太郎《濁醪療渇黄葉村店》1889年(明治22)
下：浅井忠《武蔵野》1898年(明治31)

1880 年代

注目

09 1900年―時代は動き、芸術(アート)が変わる



上左：アンリ・ルソー
《エッフェル塔とトロカデロ宮殿の眺望》1896 - 1898年
上中：パブロ・ピカソ
《海辺の母子像》1902年
© 2017－Succession Pablo Picasso-SPDA (JAPAN)
上右：オディロン・ルドン《日本風の花瓶》1908年
下：黒田清輝《野辺》1907年(明治40)

1900 年

19世紀が終わり、新しい世紀へと変わる頃、芸術の世界も激動の時代を迎えます。ドガ、ルノワールら印象派の画家たちや、新印象派の画家シニャックが自らの芸術をさらに深化させていく一方で、世紀末の象徴的な絵画が生まれ、ルソーは独自の世界を描き出します。パリ万博が開催された1900年には、ピカソが故郷スペインから、芸術の都パリへとやってきます。
また日本でも、黒田清輝によってフランスからもたらされた明るい外光表現が新たな潮流をつくり出しました。社会も大きく動いた世紀転換期は、さまざまな傾向の芸術が共存する豊かな時代でもありました。

11 Bonjour! 巴里(パリ)―パリと日本の画家たち

ら約100年間に描かれた名画100点を、20のテーマに沿ってご紹介します。

上：モーリス・ド・ヴラマンク
《シャトゥー》1906年頃
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017 E2731
下：パブロ・ピカソ
《裸婦》1909年
© 2017－Succession Pablo Picasso-SPDA (JAPAN)

年代

12 美の競演―女性像にみる西洋と日本

上：ピエール・ボナール
《浴槽、ブルーのハーモニー》
1917年頃
下左：村山槐多
《湖水と女》1917年（大正6）
下右：岸田劉生
《麗子坐像》1919年（大正8）

1910-1920 年代

15 パリに集う異邦人たち（エトランジェ）―エコール・ド・パリの肖像

左：アメデオ・モディリアーニ《ルニア・チェホフスカの肖像》1917年
右：シャイム・スーティン《青い服を着た子供の肖像》1928年

1920年代

17 実りの季節―マティスとピカソ

左：パブロ・ピカソ《花売り》1937年
© 2017－Succession Pablo Picasso-SPDA (JAPAN)
右：アンリ・マティス《リュート》1943年

1930 - 1940年代

20 それぞれの宇宙―描かれた幻想（ヴィジョン）

マルク・シャガール
《オペラ座の人々》1968 - 1971年
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017, Chagall® E2731

1960年代

ンダンで「キュビスム」集団展示　**1918**年 ツァラ「ダダ宣言」　**1919**年 第1回帝展開催　**1924**年 ブルトン「シュルレアリスム宣言」　**1937**年 パリ万博開催　**1946**年 第1回日展開催　**1950**年代半ばにイギリスでポップ・アート誕生、**1960**年代にアメリカで最盛期を迎える　**1960**年代半ばにオプ・アート、ミニマリズムの傾向が強まる

「マネとポスト印象派」展開催　**1913**年 ニューヨークで「アーモリー・ショウ」開催　**1925**年 パリで現代産業装飾芸術国際博覧会（アール・デコ博）開催　**1946**年 ニューヨークで「抽象表現主義」の語が使用される　**1952**年 批評家タピエが「アンフォルメル」の展覧会開催　**1954**年「具体美術協会」結成

1910 ◆ 1920 ◆ 1930 ◆ 1940 ◆ 1950 ◆ 1960 ◆

1914 - 18年 第一次世界大戦　**1923**年 関東大震災　**1926**年 昭和元年　**1933**年 ドイツでナチス党のヒットラーが首相に就任。日本、国際連盟を脱退　**1939 - 45**年 第二次世界大戦　**1946**年 日本国憲法発布　**1956**年 日本、国際連合に加入　**1964**年 東京オリンピック開催

1932年 満州国成立

13 薔薇とキャベツ―静物画の魅力

上：モーリス・ユトリロ《シャップ通り》1910年頃
下：佐伯祐三《アントレ ド リュード シャトー》
1925年（大正14）頃

1910年代

14 描かれた日本（ニッポン）のエレガンス―洋画の美人画

上：小出楢重《静物》1924年（大正13）
下：和田英作《薔薇》1926年（大正15）頃

1920年代

上：藤島武二《女の横顔》
1926 - 1927年（大正15 - 昭和2）
下：岡田三郎助《あやめの衣》
1927年（昭和2）

1920年代

注目

16 魔術的芸術の魅惑―シュルレアリスムのひろがり

左：ジョルジョ・デ・キリコ
《ヘクトールとアンドロマケー》1930年頃
© SIAE, Roma & JASPAR, Tokyo, 2017 E2731
右：古賀春江《白い貝殺》1932年（昭和7）

1930年代

1920年代から30年代にかけて、ヨーロッパではシュルレアリスム運動が大きな盛り上がりを見せます。これまでにないモティーフの取り合わせや空間表現によって生まれた不思議な芸術は、時代を席巻しました。さらに、この頃、情報伝達の速度も飛躍的に高まり、こうした新たな表現は、雑誌や翻訳書を通して、ほぼ同時に、遠く日本にまで伝わっています。ヨーロッパから日本まで、多様な広がりを見せたシュルレアリスム芸術の魅力を、マグリットやダリ、古賀春江や三岸好太郎といった画家たちの作品でご紹介します。

注目

18 画家たちと戦争―揺れる時代の絵画

上：レオナール・フジタ（藤田嗣治）
《ラ・フォンテーヌ頌》1949年
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017 E2731
下左：マルク・シャガール
《ヴィテブスクの冬の夜》1947年
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017, Chagall® E2731
下右：岸田劉生
《満鉄総裁邸の庭》
1929年（昭和4）

1940年代

戦争は、その時代を生きた画家たちの人生と作品に大きな影響を及ぼしました。日本の画家たちの中には、満州訪問をきっかけに大陸の地を踏み、新たな刺激を得た者もいました。また、シャガールやミロは、戦禍を逃れ亡命しますが、その苦境の中でも制作を続けました。フジタは、戦中には国家の要請で戦争画を描き、戦後そのことで国内の画壇から糾弾されます。日本を離れることにしたフジタは、再び向かった第二の故郷パリで活躍を続け、新しい主題にも挑戦します。戦争という混乱と悲劇に画家たちがどのように向き合ったのか、戦中戦後に描かれた名画から探ります。

19 戦後の絵画―写実（リアル）と抽象のはざまで

上：荻須高徳《ジャン・ジョレス界隈、ジュマップ河岸》
1958年（昭和33）
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017 E2731
下：熊谷守一《きび畑》1960年（昭和35）

1950年代